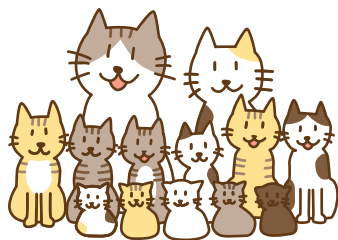


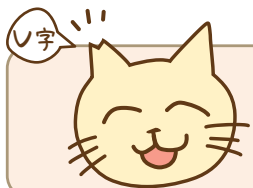
3 不妊・去勢手術



猫は繁殖力がたいへん高く、4～8匹の子猫を、年2～3回産みます。生まれたばかりの子猫たちは、カラスなどに襲われたり、飢え、感染症、厳しい寒さや暑さに耐えきれず、命を落としていきます。また、増えすぎた猫たちは、糞尿、鳴き声、庭を荒らす、などで、地域住民から嫌がられます。

こういった不幸な猫たちを増やさないために、世話をする猫への不妊・去勢手術をしましょう。

また、手術をした猫には、**耳先カット**などで、わかるようにしましょう。



「耳先カット」により、地域で管理されている猫であることが一目でわかるし、2度の手術をされることも防げます。動物にとって苦痛は全くありません。

手術をすると、こんなに良いことが…

- 不幸な猫たちが生まれなくなります。
- 生殖器の病気を予防できます。
- 尿臭がうすくなり、スプレーも減ります(特にオスは効果が高いです)。
- さかりの鳴き声が止まります。
- メスをめぐってのケンカや放浪がなくなります。
- 行動範囲がせばまり、他の地域に迷惑がかからなくなります。

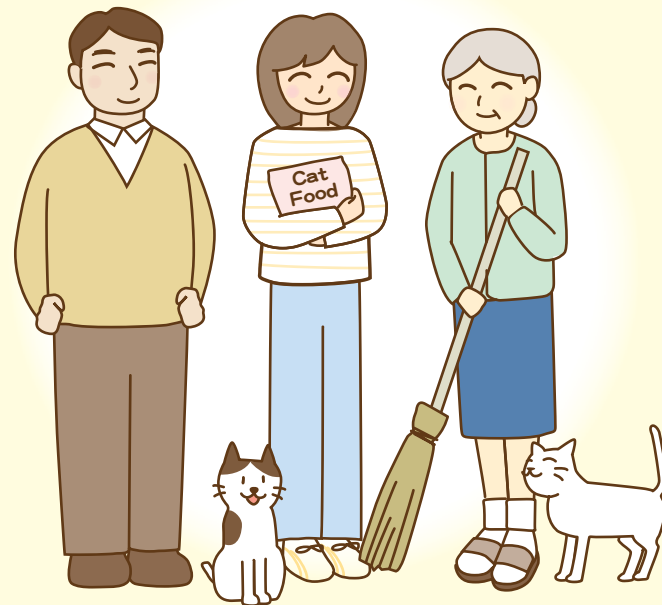
地域住民に認められ、これ以上増えないように不妊手術をして、一代限りの天寿を全うするために、地域で管理される猫たちを「**地域猫**」といいます。

地域猫の推進活動は、猫を増やす活動ではなく、**街をきれいにするための活動**です。

動物の愛護及び管理に関する法律

- ・猫は法律で「愛護動物」と定められています。愛護動物をみだりに殺したり傷つけたりしてはいけません。(1年以下の懲役または100万円以下の罰金)
- ・愛護動物をみだりに衰弱させるなどの虐待をしてはいけません。(50万円以下の罰金)
- ・愛護動物を遺棄(捨て猫)してはいけません。(50万円以下の罰金)

飼い主のいない猫にエサをあげ、お世話をする方々へ、この冊子を捧げます。

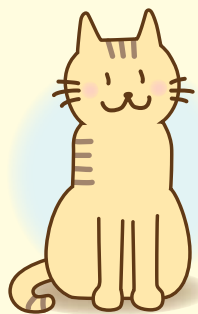


人と動物の共生を目指して

千葉県

制作：千葉県 保健福祉局 健康部 千葉県動物保護指導センター
住所：千葉県稲毛区宮野木町 445-1
電話：043-258-7817
協力：千葉県猫ボランティア連絡会

エサをあげること自体は、動物愛護上、決して悪いことではありませんが、気がつかないうちに、ご近所に迷惑がかかってしまうことがあるかもしれません。迷惑がかからないようにするには、どのようにしたら良いか、一緒に考えていきましょう。



「飼い主のいない猫」とは？

- ① 心ない飼い主に捨てられてしまった。
- ② 飼い猫が迷子になってしまった。
- ③ 不妊・去勢手術をしていない猫が、どこかで子猫を産んでしまった。といった猫たちです。

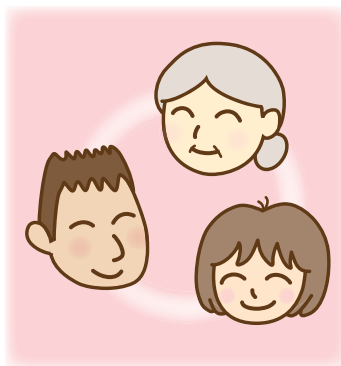
地域からの理解

猫が好きな人がいる一方で、猫が嫌いな人もいます。両者が仲良く、お互い理解し合うことができれば、素晴らしいことです。

これには、エサをあげる人々が、**その地域から理解を得る努力**を継続することが、非常に重要になります。

日頃からのご近所づき合いなどを通じて理解者や協力者を探し、チームワークを生かして、単独でのお世話はしないように努めましょう。

(地域で活動しているボランティアの方もいらっしゃいます。ひとりで悩まないで!)



地域からの理解を得るためには？

1 エサの与え方

エサのあげっぱなしはいけません。

不衛生なうえに、悪臭の元となります。**カラス**や**ハト**のエサ場にもなり、フンで汚されます。

エサ場は、自宅敷地内か、ご近所の方々と相談して、他人に迷惑がかからない場所で、時間をきめて与えましょう。

量は猫が食べきれるだけを与え、容器を回収し、常に清潔にしましょう。

2 排泄物の掃除

エサをあげれば、ウンチやおシッコもします。

エサ場やその周辺を巡回し、必ず**毎日回収**と**掃除**をしましょう。

特にエサ場のそばには、**猫用トイレ**を設置しましょう。

